

令和6年度 第1回 教育研究評議会 要録

日時	令和6年4月17日(水) 13時00分～15時00分
場所	遠隔会議：第一会議室、各事務室等
出席者	榊理事長、高田学長、榎本理事、中山副学長、柳沢副学長、久保副学長、山内副学長、吉田文学部長、酒井理学部長、鈴木則子生活環境学部長、藤田工学部長、遊佐人間文化総合科学研究科長、鈴木広光評議員、高岡評議員(リモート)、鍵和田評議員、篠田評議員、岡本評議員、松本評議員、黒子評議員、衣川評議員、宮林評議員
列席者	三野監事、三谷監事、向総務課長、寺本企画課長、川村人事課長、幸田財務課長、奥施設設課長、岡田情報課長/学術情報課長、荒堀国際課長、植田研究協力課長、米谷学務課長、角田学生生活課長、津寄入試課長、岩阪監査室長
議長	高田学長

議事に先立ち、

- ① 学長から構成員、列席者について紹介があり、各自、自己紹介を行った。
- ② 学長から教育研究評議会の役割等について説明があった。
- ③ 前回の記録についての確認を行った。
→松本評議員から、前回の記録を慎重に確認したいとの意見があり、再度確認期間を設けることとし意見等があれば次回会議までに修正等の文案を示した上で連絡願うこととした。
生活環境学部長から、記録は従来の方針から変更し簡略化することとなるかとの質問があり、高田学長から、今回の会議記録の作成にあたりどの程度の記載とするか次回会議までに示したいとの説明があった。

I 審議事項

1. 国立大学法人奈良国立大学機構理事長選考・監察会議委員の選出について
高田学長から、資料1により、国立大学法人奈良国立大学機構理事長選考・監察会議委員を奈良女子大学から3名選出する旨、説明があった。また、他のセンター長や附属学校部長を兼ねる柳沢副学長と山内副学長は被選挙権がある旨の説明があり、投票を行った。投票の結果は以下のとおり。
1回目：酒井理学部長 11票、鈴木生活環境学部長 7票、宮林評議員 7票、吉田文学部長 6票、衣川評議員 4票、柳沢附属学校部長 4票
2回目：酒井理学部長 17票、吉田文学部長 12票、鈴木生活環境学部長 11票
2段階の投票の結果、酒井理学部長、吉田文学部長、鈴木生活環境学部長を選出した。
2. 情報環境学専攻の名称変更について
遊佐人間文化総合科学研究科長から説明があり、審議の結果、資料2に示された原案のとおり承認した。
3. 科研費の状況の検討について
久保副学長から、資料3-1～3-4により説明があり、応募・採択状況等について、種々意見交換を行った。
酒井評議員より、研究費の獲得自体を目的とするのではなく、学内の研究者間での意見交換の場を設けることや、科研費以外にも含めた研究費の獲得状況などを見えるようにすることの重要性について意見があった。
衣川評議員より、研究費の申請に当たり、昨今の時流を捉えた内容や観点からのアドバイスを受けられると良いこと及び不採択となった場合でも大学から支援を得られるなど研究者がより大きな区分に挑戦しうる環境が望ましいとの意見があった。
審議の結果、今回の議論を踏まえて、今後も検討を続けていくこととした。
4. 三菱みらい育成財団への申請について

山内副学長から、資料 4-1～4-2 により説明があり、種々意見交換を行った。

宮林評議員より、今回、共同申請する東京工業大学、お茶の水女子大学、奈良女子大学以外の研究機関のリソースの活用についても検討して欲しい旨、意見があった。

榊理事長より、奈良でイベント等を実施する際の会場選定について、3年後に向けて十分検討して欲しいとの意見があった。

審議の結果、これを承認した。

5. 防衛装備庁の研究費の申請について

久保副学長から、資料 5-1～5-8 により、防衛装備庁の研究費に対する考え方について、意見を聴取したい旨、説明があった。

審議の結果、各部局においても意見聴取した後、各部局から久保副学長に意見を出すこととした。

6. 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の申請について

久保副学長から、資料 6-1～6-7 により、今年度に申請を検討している旨、説明があった。

高田学長より、特に理工系分野の教授等の女性比率を上げるための具体的な方策について、各部局から久保副学長か高田学長に意見を出して欲しい旨、説明があった。

衣川評議員より、理工系の分野ではそもそも採用しようとしても女性人材がいないということも考慮していただきたいとの意見があった。

審議の結果、各部局からの意見を踏まえ、内容については引き続き検討していくこととした。

7. 諸規程等の制定等について

(1) 奈良国立大学機構事務分掌規程一部改正について

榊本理事から説明があり、審議の結果、資料 7 に示された原案のとおり承認し、役員会に付議することとした。

(2) 奈良カレッジズ連携推進センター規程の一部改正について

榊本理事から説明があり、審議の結果、資料 8 に示された原案のとおり承認し、役員会に付議することとした。

8. その他

久保副学長から、資料 9-1～9-2 により「オープンアクセス加速化事業」の検討状況について説明があり、事業への申請について、種々意見交換を行った。

岡本評議員より、臨床心理の事例など、個人情報があるものはオープンアクセスの対象外であること、確認があった。

榊本理事より、2025 年度からの科研費等の申請については、即時オープン化というのが要件として決まっており、大学としても準備が必要との説明があった。

審議の結果、本事業へ申請することを承認した。

II 報告事項

1. 第 50 回役員会について

高田学長から、資料 10 に示された審議事項と報告事項の報告があった。

2. 令和 4 年度「全国学生調査(第 3 回試行実施)」奈良女子大学・奈良教育大学の現状について

榊本理事から、資料 11 により、特に全国平均から有意に差の認められた事項を中心に報告があった。

3. 両大学の連携の進捗について

榊本理事から、資料 12 により、機構・両大学の 4 月の取組について報告があった。

4. 奈良女子大学マイクロン科学技術研究助成の募集について
久保副学長から、資料 13 により学内公募による募集案内があった。
5. 令和 5 年度設置計画履行状況等調査の結果について
榎本理事から、資料 14 により、本学については特に指摘事項は付されなかった旨の報告があった。
6. 令和 6 年度予算配分について（理事長裁量経費を含む）
榎本理事から、資料 15 により、令和 6 年度当初予算配分結果について報告があった。
7. 教職課程自己点検・評価報告書について
柳沢副学長から、資料 16 により、すべての項目について「適切に実施されている。」旨の報告があった。
8. 事務局長の多面評価の結果について
榎本理事から、資料 17 により、特に「2. 成果を上げる組織運営」と「3. 資源の有効活用」について課題があると認識していることなどの報告があった。
9. その他
松本評議員より、事前に会議内容を検討できるように会議資料を早く見られるようにしてほしい旨、意見があり、高田学長から、今回報告事項等については、次回、改めて質問していただいて構わない旨の発言があった。
高田学長から、寺岡伸悟教授が、けいはんな歴史文化共同研究所長となる旨報告があった。

以 上